関西国際空港の施設概要

1期島

■面積：約510ha
■開港日：1994年9月4日
■主な施設
第1滑走路(3,500m×60m)、駐機場 (67スポット)、
第1ターミナルビル、貨物取扱施設、空港駅等

2期島

■面積：約545ha
■供用開始日：2007年8月2日
■主な施設
第2滑走路(4,000m×60m)、駐機場（27スポット)、
第2ターミナルビル、貨物取扱施設、駐車場等

関西国際空港の強み

優れた空港機能

- 長距離滑走路2本を有する完全24時間運用空港
- 余裕のある発着処理能力
- 機能性が高く洗練されたデザインの第1ターミナルビル
- LCC専用の第2ターミナルビル

利便性の高い就航ネットワーク

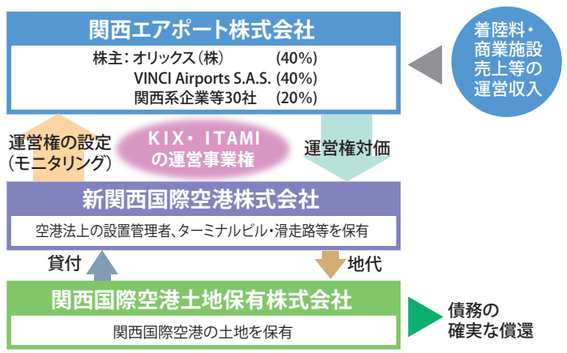
- 世界25カ国・地域、91都市を結ぶ航空路線
- 東京圏に比べ、アジアに約1時間近い
- 日本のほぼ中央に位置し、便利な内際乗り継ぎ機能

空港アクセスの充実

- 鉄道、リムジンバス、高速船など多様な空港アクセス
- 空港リムジンバス24時間運行

日本初のコンセッションによる複数空港運営

コンセッションスキーム

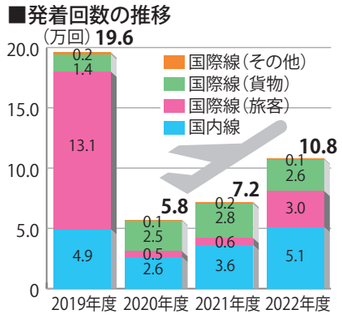


新型コロナウイルス感染症からの回復と機能強化

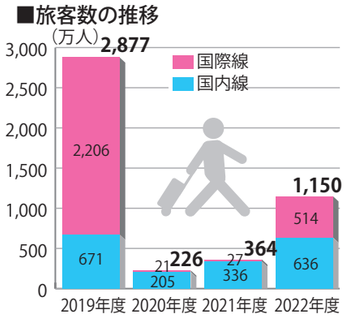
関西国際空港の回復状況

新型コロナウイルス感染症により、多大な影響を受けた関空は、未だ全面的な回復には至っていないものの、2022 年 10 月の水際対策の緩和等もあり、2022年度はコロナ前の 2019年度と比較して、発着回数は55%、旅客数は40%まで回復している。

■発着回数の推移



■旅客数の推移



第１ターミナルビルの大規模改修

2025 年大阪・関西万博の開催時に、関空が世界の玄関口として、国内外からの来訪者を円滑にお迎えできるよう、第１ターミナルビルの大規模改修に着手しており、2025 年春のグランドオープンに向けて、着実に取組みが進められている。

2025 年春グランドオープン
主要機能完成
（新国際線保安検査場、新国際線ラウンジ運用開始）

2026 年秋
新国際線出発エリア
南北商業施設増設

2023 年冬
新国際線出発エリア
（中央）オープン

2022 年 10 月
新国内線エリア
オープン

年間発着回数 30 万回の実現に向けた取組み

2025 年大阪・関西万博と、その先の更なる成長も見据え、年間発着回数 30万回の実現を目指す

「公害のない空港」という基本理念を尊重し、必要最小限の範囲での現行飛行経路の見直しに向け、取組みを進めている。

促進協の主な取組み

2020 年の
要望活動の様子

国への要望活動

（2023 年度の要望項目）

1. **2025年大阪・関西万博とその後の成長を見据えた関空の機能強化等**
2. **円滑かつ快適な受入体制の整備**
3. **国際線旅客需要の早期回復**
4. **関空の脱炭素化の推進**

関西国際空港ゲートウェイ機能強化促進事業

1. 航空需要の回復
関空を成長軌道に戻すための航空会社と連携した関空路線のPR事業など

2. 関空の立地効果波及推進
関係自治体等と連携した、関空が立地する経済的効果を地域に取り込む事業など

3. 空港機能の維持に必要な取組
空港内事業者が行う人材確保に向けた取組への支援など